

国際ロータリー第2680地区
2024-25年度 第8回行動計画委員会 議事録

日時 : 2025年6月12日(木) 16:00~18:00

場所 : ポートピアホテル パール

参加者 : 矢坂誠徳ガバナー(神戸西)、矢野宗司地区ラーニングファシリテーター(加古川中央)、城守ガバナーエレクト(姫路)、三木健義次期代表幹事(姫路)、勇正一郎 2027-28年度代表幹事(尼崎東)、秦紳一郎ガバナー指名ガバナー補佐(洲本)、武本正照ガバナー指名ガバナー補佐(尼崎北)、安行英文次期行動計画委員長(三田)、中村滋彦次期行動計画委員会副委員長(姫路南)、天羽公夫クラブ管理運営委員長(甲子園)、二宮明彦クラブ管理運営委員会副委員長(甲子園)、高瀬英夫委員長(西脇)、永瀬隆一副委員長(芦屋川)、二神敏行(尼崎中)、神谷誠治(尼崎中)、竹原善記(宝塚)、古川彰治(宝塚)、和田孫博(神戸東灘)、樋口典明(明石東)、津田豊(津名)、中村孝秀(龍野)、阪本渚子(宝塚ユニバース衛星)

議事録作成: 阪本渚子

次第

1. 開会挨拶

矢坂誠徳ガバナー

委員の皆様の献身的な活動により、県内各地で出前セミナーが行われた。永瀬副委員長にはいつも献身的な通知をいただいた。次年度も委員長は変わるが、引き続きよろしくお願いいたします。色々な出会いがあり、この地区でもみなさんのご尽力をもって次年度以降も素晴らしい地区にさせていただきますよう重ねてのご奉仕をよろしくお願いいたします。

2. 意見交換 委員会活動の振り返りと今後に向けて

・ 3年間のまとめ

高瀬委員長

ー委員会資料を参照

・ 出席者による意見交換

永瀬副委員長

ーイ) 3年間の振り返り、ロ) 今後に向けて、ハ) 次年度の行動計画委員会とクラブ管理運営委員会のすみ分けについて

イ) 3年間の振り返り

(矢野) 委員会が毎年テーマを変えて活動してきたことにより、マンネリ化せず新鮮味を保てた。

(永瀬) 出前セミナーで他クラブの悩みや問題点を共有する機会が新鮮で有意義だっ

たとの意見が参加者から出ていた。

(和田) 過去のセミナーがクラブに持ち帰られておらず、クラブ内での情報共有が不十分な点を懸念。

(高瀬) セミナーの目的は参加者の意識変革（心に火をつけること）であるが、維持が困難。ガバナー補佐の存在が重要であることを指摘。

(中村) 高瀬委員長年度の3年間は地ならしの期間であり、行動計画・クラブビジョンの必要性を広める努力を行った。

(矢坂) 月信裏表紙への行動計画掲載、出前セミナーでの啓発活動を通じて、認知は進んだ。

(神谷) 出前セミナーは意見交換の場として有意義であり、次年度に向けた良い刺激となった。

(古川) 若水会場でのパーテーション不備を反省点として挙げた。

(勇) 隣のテーブルの声が気になり、集中が妨げられる問題を指摘。

(樋口) セミナーを通じて自分自身の意識改革ができた。

(秦) 淡路グループのセミナーが参加者に良い刺激を与えたと報告。

(武本) セミナーをきっかけに3年計画を始動し、クラブでの実践に繋がった事例を紹介。

(安行) 行動計画が全国的にも先進的であり、他地区から評価されていると説明。

(津田) セミナーを通じて、クラブ内でのビジョン・行動計画の意識が高まった事例を共有。

ロ) 今後に向けて

(矢野) 行動計画の実行には課題が多く、数字目標（マイロータリー登録率など）を達成するには実行施策が必要と指摘。

(永瀬) 行動計画がすべてのクラブに当てはまるわけではなく、押し付けではなく対話と気づきが大切と強調。

(高瀬) 継続的な意識づけのため、ガバナー補佐の存在と役割が重要。

(中村) 各クラブの自覚不足や、ガバナー補佐間の理解のばらつきを課題として提示。

(矢坂) クラブでの行動計画の浸透・実践が不十分であり、今後の大きな課題と位置づけ。

(神谷) 会長エレクトが継続的に意見交換できる場の設置を提案。

(樋口) IM などを通じて定期的な意識づけの重要性を強調。

(秦) 会長ノミニニー対象セミナーの意義や、PETS との連携の重要性を提起。

(天羽) クラブビジョン策定が活性化に繋がったという共通認識の重要性を訴えた。

委員会設置状況のアンケート変化について考察が必要と述べた。

(二宮) アンケート結果の回答が結果軒並み下がっていることを指摘。長期計画の策定には、パスト会長、会長、エレクト、ノミニーの関与が不可欠と提案。クラブ行動計画委員会に所属すべきメンバー（パスト会長、会長、エレクト、ノミニー）をグループごとに巻き込み、具体化を図る提案を行った。

ハ) 次年度の行動計画委員会とクラブ管理運営委員会のすみ分けについて

(城) 次年度からは行動計画委員会の支援的な役割をクラブ管理運営委員会に引き継ぎ、行動計画委員会は本来のビジョン策定に回帰。

既に行ったアプローチの実態調査や支援をクラブ管理運営委員会が担うことを提案。国際協議会にて出前セミナーのことを発表し、水野 RI 理事の耳には入っていることを共有。

(安行) 行動計画委員会は次年度、地区ビジョン作成に特化する。クラブ管理運営委員会からの情報共有を受け、地区ビジョンに反映させていく方針を説明。

(天羽) クラブ活性化に繋がったという認識が委員内で共有されているかが、今後の活動の基盤になると強調。委員会設置状況のアンケート変化について考察が必要と述べた。

城ガバナーと安行行動計画委員長には随時、クラブ管理運営委員会に出席いただき、両委員会のすり合わせを行う。

3. 閉会挨拶

城守インカミングガバナー

この1年間、委員の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げます。出前セミナーには自身も可能な限り参加し、特に但馬グループでは懇親会こそなかったものの、あるクラブの会長から「頑張ります」と元気な声をいただくなど、参加された皆さまが感じている以上に、出前セミナーには効果があったと実感しています。

また、RI 会長エレクトが6月8日深夜に辞退し、アーチック現会長によって受理された旨の連絡がありました。これを受けて、RI 理事である水野氏より、6月13日深夜に RI 理事会が開催され、新たな会長エレクトを選出するためのプロセスが開始されとの報告がありました。会長エレクトが空白となった場合は、当該年度の選考委員会に遡り、当時の候補者の中から新たに1名を指名する手順となります。結果が確定次第、水野理事より正式な連絡が入る予定です。

なお、RI 会長メッセージにつきましては、RI が定めた内容を RI 会長が伝えるという趣旨であるため、現状のまま変更なく継続される予定です。